

2018/6/11

柏の景気情報（平成30年5月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成30年5月分）

○ 調査期間 : 平成30年5月28日 ~ 平成30年6月6日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	71	45.5%
建設	44	19	43.2%
製造	33	14	42.4%
卸・小売	43	23	53.5%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成30年5月の調査結果のポイント】

◀業況DIはほぼ横ばいだが、先行きは回復への期待感が見られる見通し▶

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲9.8(前月水準▲12.8)となり、マイナス幅が3.0ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△14.2(同△7.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.6(同▲20.0)、卸小売業▲21.7(同▲34.7)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲15.7(同△5.2)である。

【建設業】からは、「不動産売買で斡旋の義務化になったインスペクションの問合せが来るようになった」(一般土木建築工事業)、「公共工事がまだ受注できないため従業員が過剰」(一般土木建築工事業)、「週休2日の働き方がゼネコン各社から要望あり、天気等に左右される施工社にとっては大きな課題となる」(職別工事業)、「GWで休みが多かった割には受注が順調で外注に出す仕事も多くなった。来月は梅雨入りするが60周年に向けて準備を着々と進めようと思う」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「決して景気が良いとは思わない。取引先の注文ロットが少なくなり、利益率も下がっている」(印刷業)、「例年になく発注案件は活発」(特殊産業用機械)、「経済大変革はデジタル完全化に向かっていくがアナログは消えない。何をデジタル化するかを考察する必要がある」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「一向に上向かずここ数ヶ月微減が続いており、婦人服メーカーはどこも同じ傾向である。夏物の動きは早かったが、その分春物を残している」(婦人子供服小売業)、「そごう撤退の後が決らず、浅野書店も撤退。地下飲食店撤退後も決らず、客数激減。自社設備投資して現状維持がやっとなりで人の流れが大きく変わり先行き不安」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「店舗老朽化が課題」(各種商品小売業)、「GW以降の売上が低迷。例年になく厳しさ」(菓子・パン小売業)、「都内の建設現場が多くなってきた。特にホテル・保育園・老人ホーム等の火災報知設備工事」(分類されない卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「米国金利高に伴う世界景気が下降に向かいだした。一部良好国も伸び悩みの中、日本の低金利にあえぐ地銀の収益が悪化。中小企業も仕事多したが収益反映なしのビジネスが続く」(投資顧問)、「近くのホームセンター跡地に1階大手の薬屋、2階100円ショップの大手が開店。このためスーパー・ホームセンター・薬局が各種セールで競い合い当分の間厳しい状況が続く。近年午前中の来客が減少しているため、来客アップが課題。余暇利用の求人募集広告が多く見られ、共稼ぎ世帯が増加していると感じた」(飲食料点小売業)、「客数増加しても客単価低下し、収益アップにつながらない」(不動産管理業)、「五輪熱が冷めかけているがこれから正念場」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「ハローワーク求人の動きがない」(一般産業用機械・装置製造業)、「採用を進めるが、募集が少なく人手不足が続いている」(各種商品小売業)、「パート・アルバイトの募集をしても反応が遅い。また、採用の連絡をしても保留(断り)にされる」(各種商品小売業)、「大手に人手を単価でハンティングされ難局中。飲食業は安定労働力の確保に全力を要する」(投資顧問)、「人手不足を見越して、応募した社員を全員採用(2~3名余分)しパートも余分に採用したため、従業員は足りているが人件費増で収益を圧迫」(飲食料点小売業)、「人手不足が慢性化。業界全体として深刻さが増している」(一般貨物自動車運送業)との声が寄せられた。

◎経費増加

各業種より、「副資材の値上げが続いていたが、5月に入ってから主材料・原材料の値上げ要請が続いている。原材料である石油値上りの為だが、原材料は石油値上がり前の在庫品にもかかわらず、6月からの値上げとなりそう」(職別工事業)、「原料価格の変動が激しい」(特殊産業用機械)、「ヤマト・佐川・日本郵便等の個人宅配業者が配送費値上げに続き、西濃・名鉄・第一貨物等の法人への配送業者も値上げを申し出てきた。個人宅配業者の主な値上げ理由は個人宅は留守が多いので再配達にコストが掛かるのが主な値上げ理由であったが、法人宅配業者の主な値上げ理由は人員確保のためであるようだ。値上げを認めないと荷物を預からないとの強硬な姿勢で責められたが、このような交渉はおかしい気がする」(食料・飲料卸売業)、「原油の値上がり、輸送物の値上がり、株価低迷と頭打ち経済は長引く」(投資顧問)、「送料の負担分を商品に転嫁したり、仕入販売価格の下限の設定がある」(飲食料点小売業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
12月	▲18.3	▲20.0	△18.7	▲47.3	▲18.7
1月	▲15.2	▲19.0	△20.0	▲47.6	±0.0
2月	▲22.2	▲14.2	▲20.0	▲40.9	▲7.1
3月	▲11.4	▲11.1	±0.0	▲26.0	±0.0
4月	▲12.8	△5.2	△7.6	▲34.7	▲20.0
5月	▲9.8	▲15.7	△14.2	▲21.7	▲6.6
見通し	▲9.8	▲10.5	△7.1	▲17.3	▲13.3

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成30年5月の業況についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲9.8(前月水準▲12.8)となり、マイナス幅が3.0ポイント縮小した。

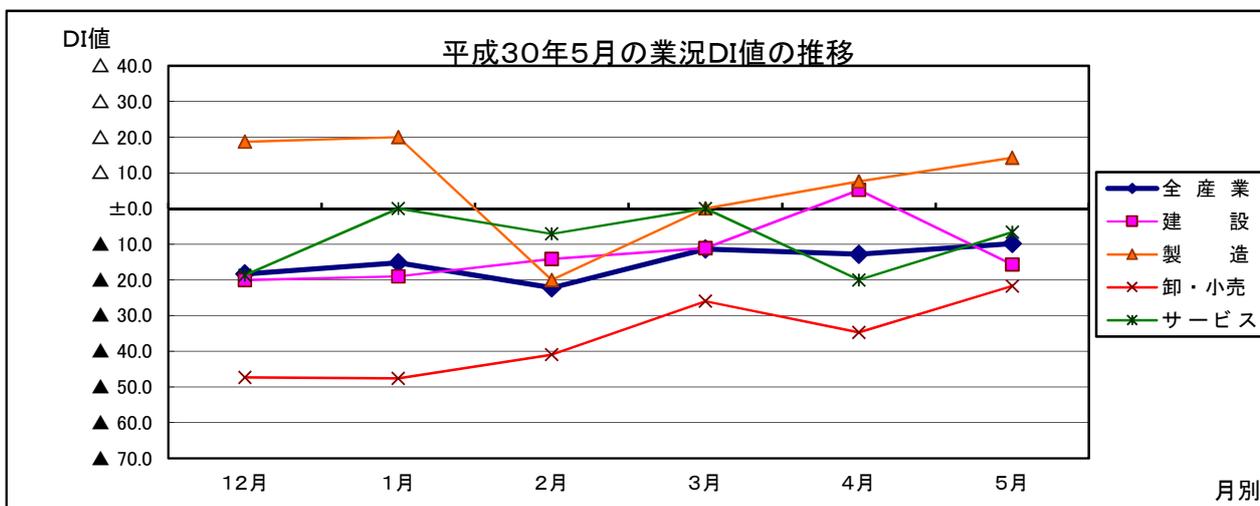
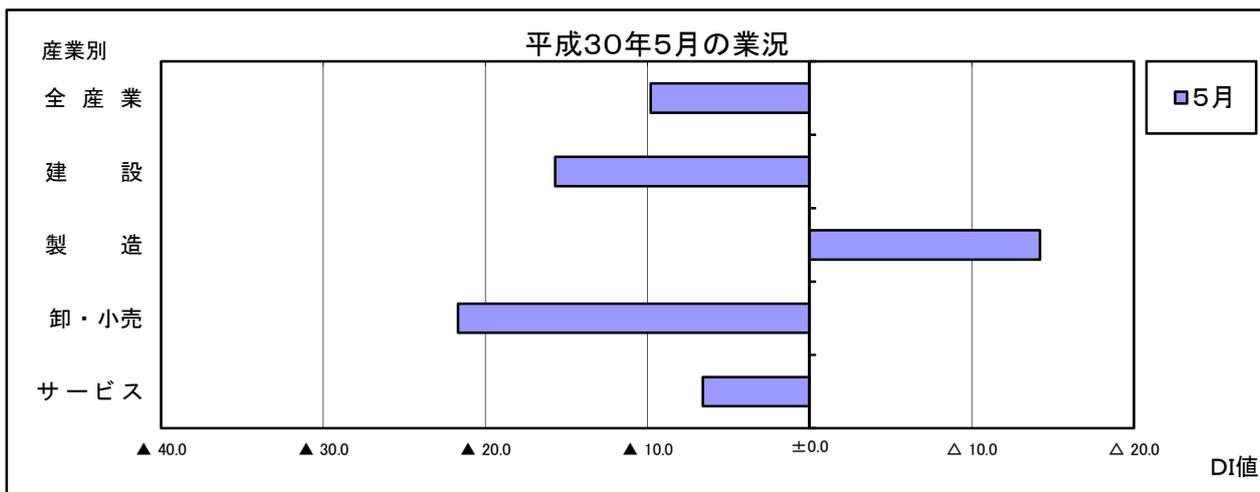
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△14.2(同△7.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.6(同▲20.0)、卸小売業▲21.7(同▲34.7)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲15.7(同△5.2)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.8(前月水準▲20.0)となり、マイナス幅が10.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△7.1(同▲23.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲17.3(同▲34.7)である。変らない見通しの業種は、サービス業▲13.3(同▲13.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲10.5(同▲5.2)である。

平成30年5月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 12月	平成30年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲18.3	▲15.2	▲22.2	▲11.4	▲12.8	▲9.8	▲9.8(▲20.0)
建設	▲20.0	▲19.0	▲14.2	▲11.1	△5.2	▲15.7	▲10.5(▲5.2)
製造	△18.7	△20.0	▲20.0	±0.0	△7.6	△14.2	△7.1(▲23.0)
卸・小売	▲47.3	▲47.6	▲40.9	▲26.0	▲34.7	▲21.7	▲17.3(▲34.7)
サービス	▲18.7	±0.0	▲7.1	±0.0	▲20.0	▲6.6	▲13.3(▲13.3)



【平成30年5月の売上についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△2.8(前月水準▲10.0)となり、プラス幅が12.8ポイント拡大した。

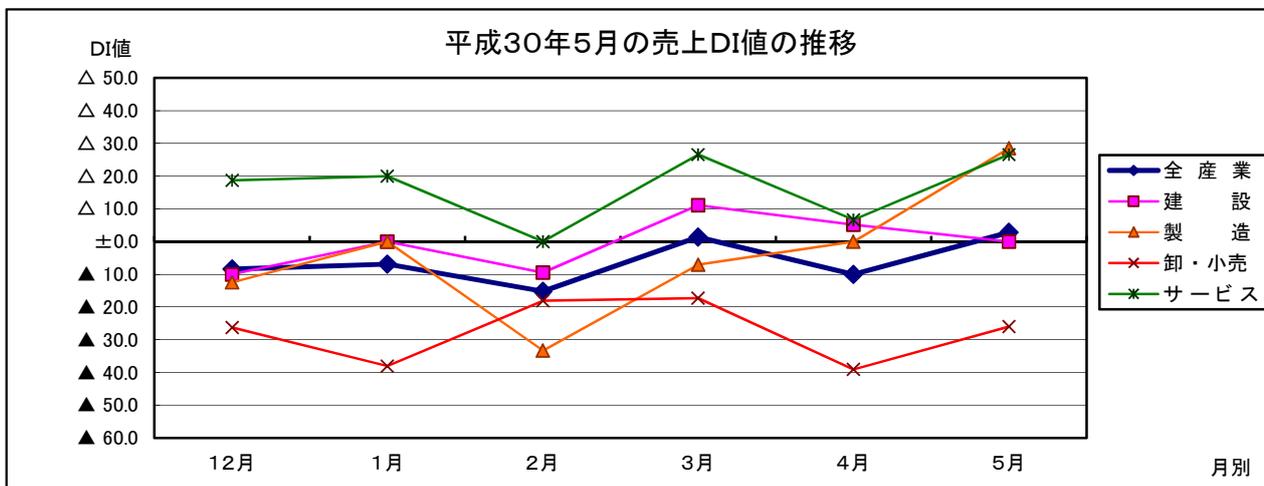
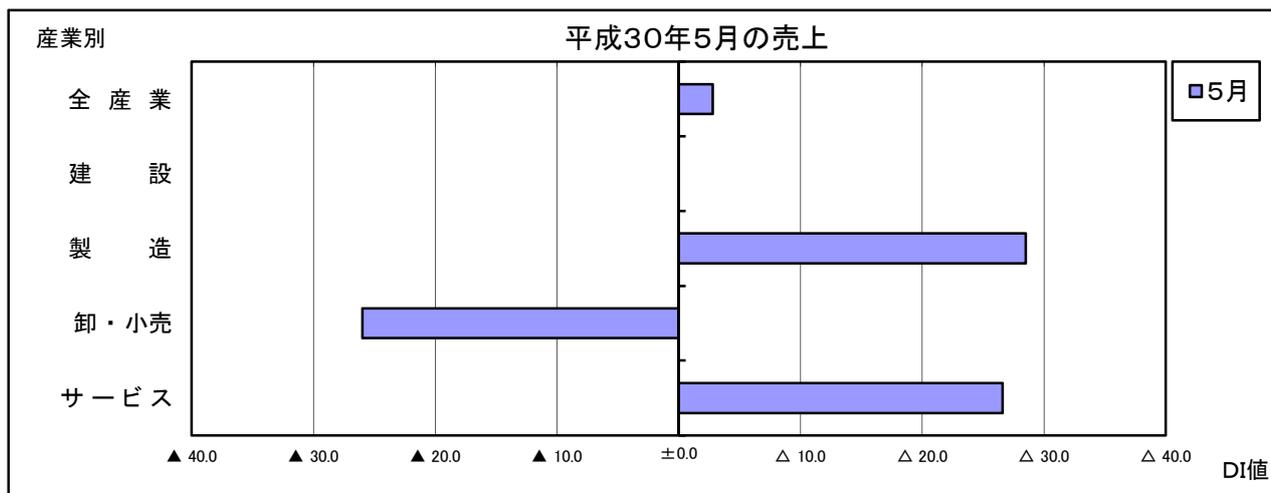
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業△28.5(同±0.0)、サービス業△26.6(同△6.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲26.0(同▲6.6)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同△5.2)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、△1.4(前月水準▲17.1)となり、プラス幅は18.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、幅の大きい順に、製造業△14.2(同▲7.6)、サービス業△13.3(同▲6.6)、建設業△5.2(同▲5.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲17.3(同▲39.1)である。

平成30年5月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 12月	平成30年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲8.4	▲6.9	▲15.2	△1.4	▲10.0	△2.8	△1.4(▲17.1)
建設	▲10.0	±0.0	▲9.5	△11.1	△5.2	±0.0	△5.2(▲5.2)
製造	▲12.5	±0.0	▲33.3	▲7.1	±0.0	△28.5	△14.2(▲7.6)
卸・小売	▲26.3	▲38.0	▲18.1	▲17.3	▲39.1	▲26.0	▲17.3(▲39.1)
サービス	△18.7	△20.0	±0.0	△26.6	△6.6	△26.6	△13.3(▲6.6)



【平成30年5月の採算についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.2(前月水準▲24.2)となり、マイナス幅は13.0ポイント縮小した。

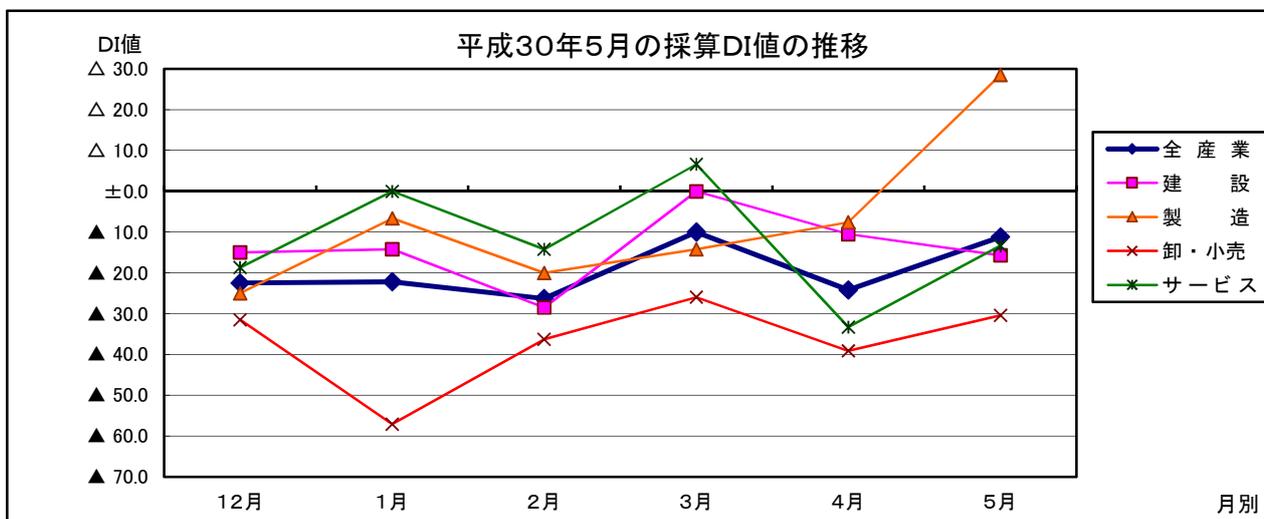
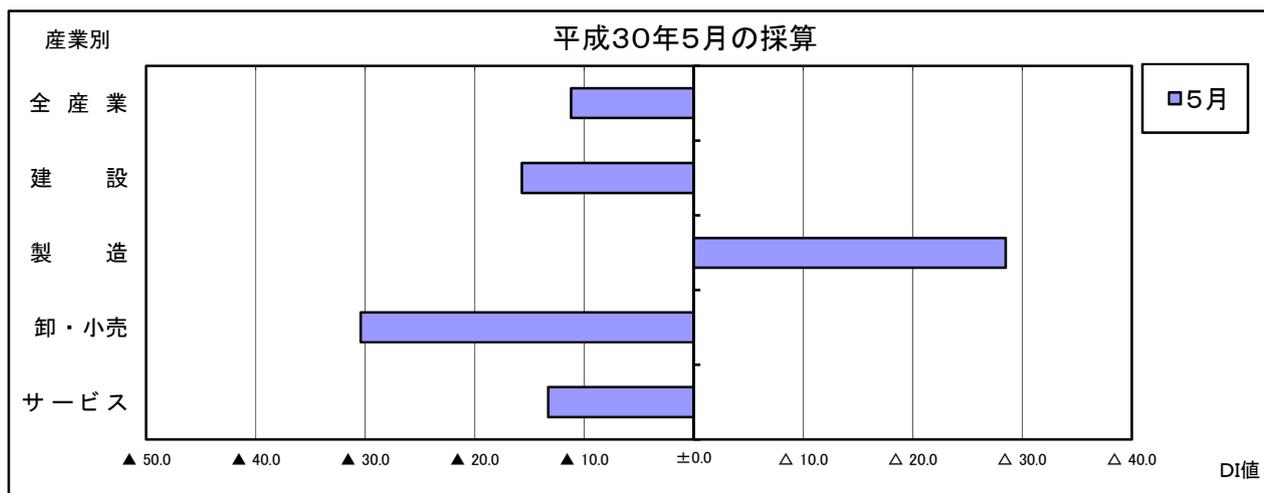
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△28.5(同▲7.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲13.3(同▲33.3)、卸小売業▲30.4(同▲39.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲15.7(同▲10.5)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.2(前月水準▲28.5)であり、マイナス幅が17.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△7.1(同▲15.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲21.7(同▲47.8)、サービス業▲20.0(同▲33.3)、建設業▲5.2(同▲10.5)である。

平成30年5月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 12月	平成30年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月～8月(5月～7月)
全産業	▲22.5	▲22.2	▲26.3	▲10.0	▲24.2	▲11.2	▲11.2(▲28.5)
建設	▲15.0	▲14.2	▲28.5	±0.0	▲10.5	▲15.7	▲5.2(▲10.5)
製造	▲25.0	▲6.6	▲20.0	▲14.2	▲7.6	△28.5	△7.1(▲15.3)
卸・小売	▲31.5	▲57.1	▲36.3	▲26.0	▲39.1	▲30.4	▲21.7(▲47.8)
サービス	▲18.7	±0.0	▲14.2	△6.6	▲33.3	▲13.3	▲20.0(▲33.3)



【平成30年5月の仕入単価についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲38.0(前月水準▲35.7)となり、マイナス幅が2.3ポイント拡大した。

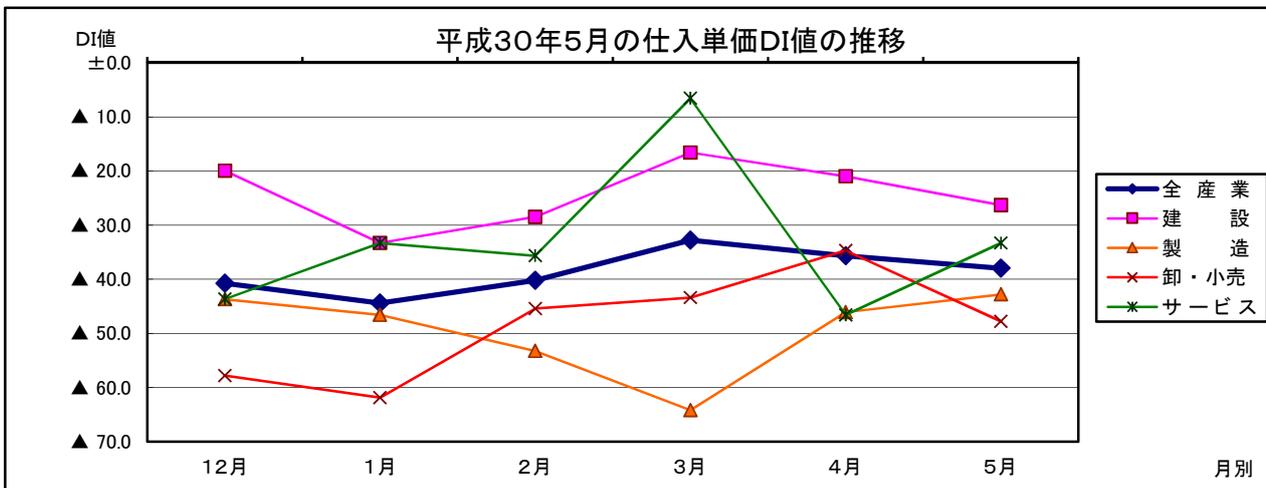
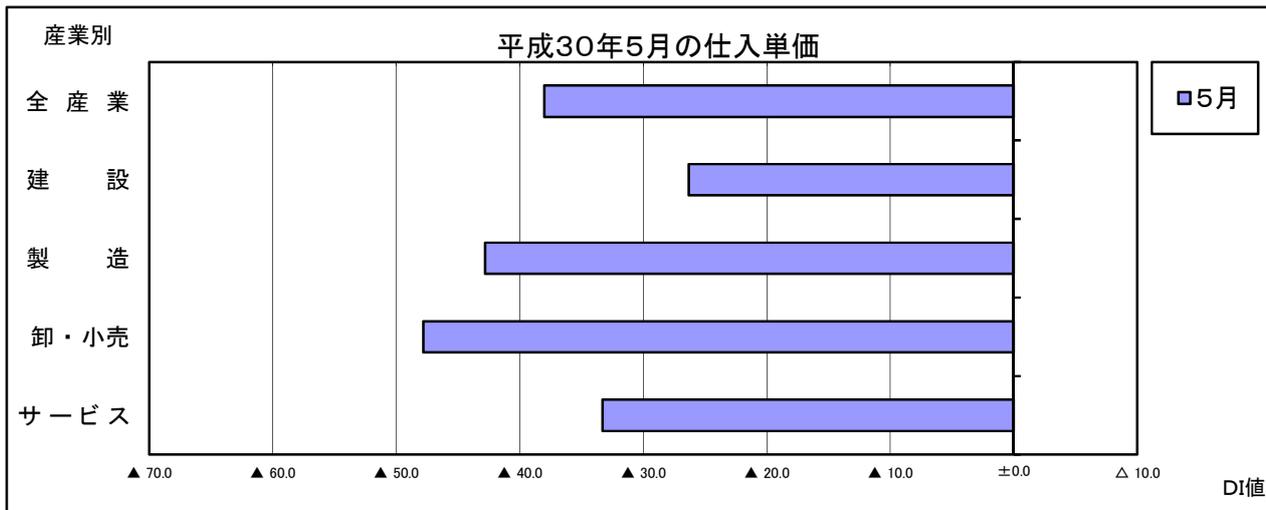
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲33.3(同▲46.6)、製造業▲42.8(同▲46.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲47.8(同▲34.7)、建設業▲26.3(同▲21.0)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲38.0(前月水準▲28.5)となり、マイナス幅が9.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲33.3(同▲40.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲35.7(同▲7.6)、卸小売業▲52.1(同▲39.1)、建設業▲26.3(同▲21.0)である。

平成30年5月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 12月	平成30年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲40.8	▲44.4	▲40.2	▲32.8	▲35.7	▲38.0	▲38.0(▲28.5)
建設	▲20.0	▲33.3	▲28.5	▲16.6	▲21.0	▲26.3	▲26.3(▲21.0)
製造	▲43.7	▲46.6	▲53.3	▲64.2	▲46.1	▲42.8	▲35.7(▲7.6)
卸・小売	▲57.8	▲61.9	▲45.4	▲43.4	▲34.7	▲47.8	▲52.1(▲39.1)
サービス	▲43.7	▲33.3	▲35.7	▲6.6	▲46.6	▲33.3	▲33.3(▲40.0)



【平成30年5月の従業員についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△21.1(前月水準△15.7)となり、プラス幅が5.4ポイント拡大した。

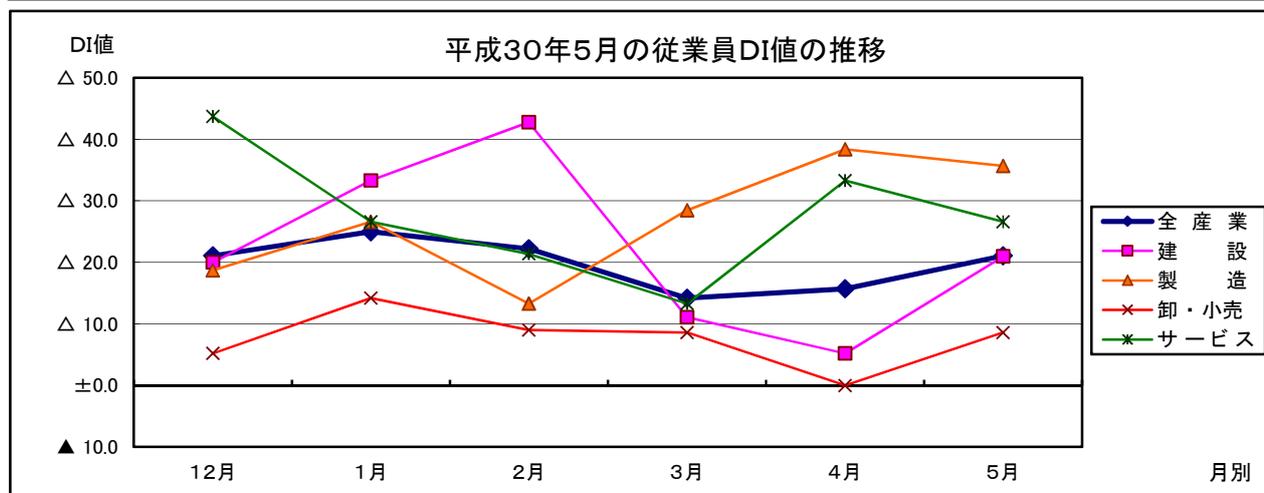
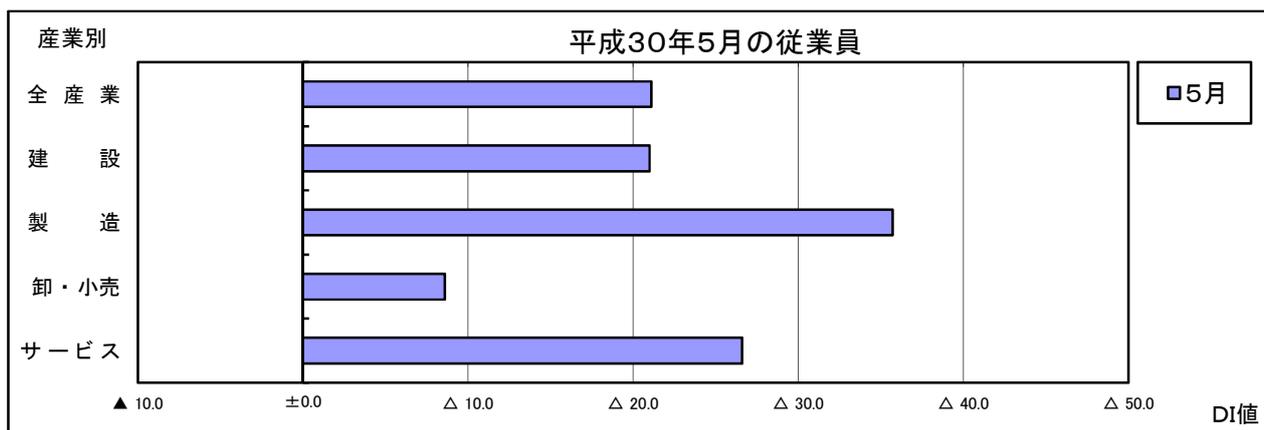
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業△21.0(同△5.2)、卸小売業△8.6(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業△26.6(同△33.3)、製造業△35.7(同△38.4)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、△21.1(前月水準△11.4)であり、プラス幅が9.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△15.7(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、卸小売業△17.3(同▲4.3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△26.6(同△33.3)、製造業△28.5(同△30.7)である。

平成30年5月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 12月	平成30年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	△21.1	△25.0	△22.2	△14.2	△15.7	△21.1	△21.1(△11.4)
建設	△20.0	△33.3	△42.8	△11.1	△5.2	△21.0	△15.7(±0.0)
製造	△18.7	△26.6	△13.3	△28.5	△38.4	△35.7	△28.5(△30.7)
卸・小売	△5.2	△14.2	△9.0	△8.6	±0.0	△8.6	△17.3(▲4.3)
サービス	△43.7	△26.6	△21.4	△13.3	△33.3	△26.6	△26.6(△33.3)



【平成30年5月の資金繰りについての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲7.0(前月水準▲5.7)となり、マイナス幅が1.3ポイント拡大した。

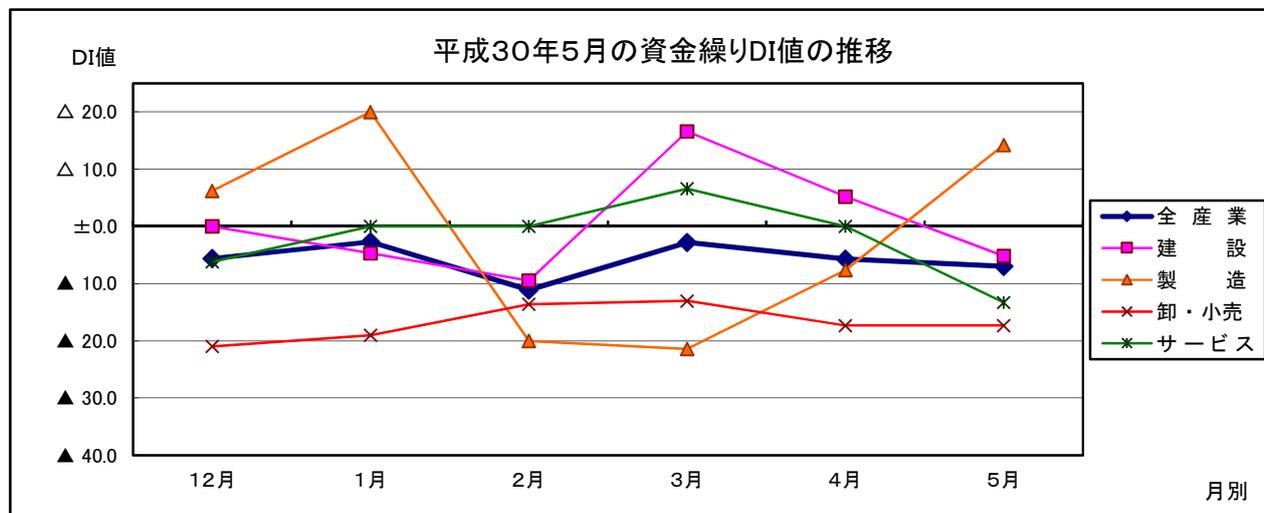
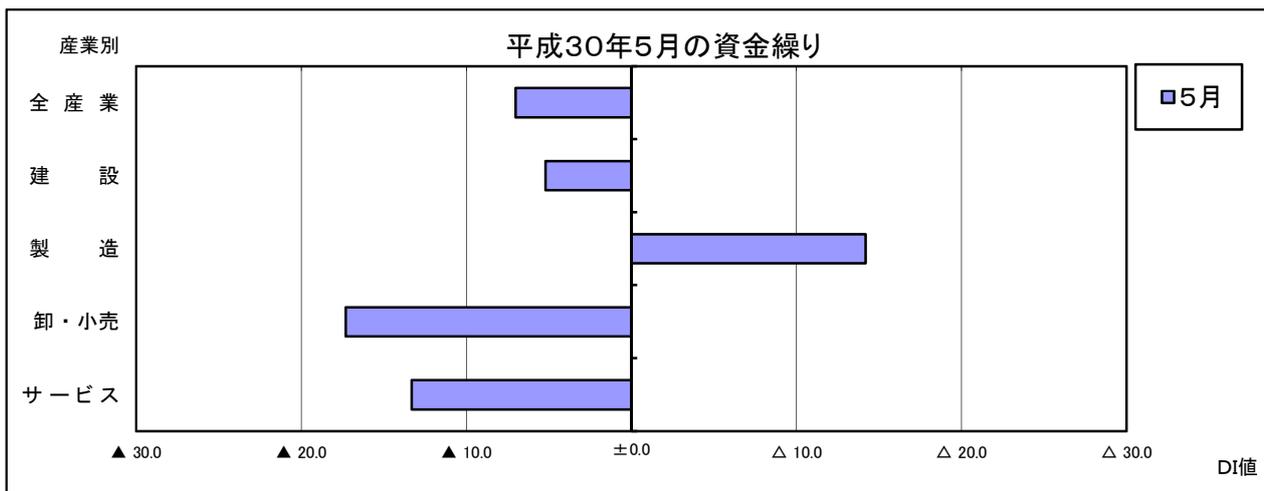
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△14.2(同▲7.6)である。変らない業種は、卸小売業▲17.3(同▲17.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲13.3(同±0.0)、建設業▲5.2(同±5.2)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7.0(前月水準▲7.1)となり、マイナス幅が0.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲4.3(同▲17.3)、製造業±0.0(同▲7.6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲20.0(同±0.0)、建設業▲5.2(同±0.0)である。

平成30年5月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成29年 12月	平成30年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲5.6	▲2.7	▲11.1	▲2.8	▲5.7	▲7.0	▲7.0(▲7.1)
建設	±0.0	▲4.7	▲9.5	△16.6	△5.2	▲5.2	▲5.2(±0.0)
製造	△6.2	△20.0	▲20.0	▲21.4	▲7.6	△14.2	±0.0(▲7.6)
卸・小売	▲21.0	▲19.0	▲13.6	▲13.0	▲17.3	▲17.3	▲4.3(▲17.3)
サービス	▲6.2	±0.0	±0.0	△6.6	±0.0	▲13.3	▲20.0(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	△ 2.8	△ 1.4	▲ 11.2	▲ 11.2	▲ 38.0	▲ 38.0	△ 21.1	△ 21.1
建設	±0.0	△ 5.2	▲ 15.7	▲ 5.2	▲ 26.3	▲ 26.3	△ 21.0	△ 15.7
製造	△ 28.5	△ 14.2	△ 28.5	△ 7.1	▲ 42.8	▲ 35.7	△ 35.7	△ 28.5
卸・小売	▲ 26.0	▲ 17.3	▲ 30.4	▲ 21.7	▲ 47.8	▲ 52.1	△ 8.6	△ 17.3
サービス	△ 26.6	△ 13.3	▲ 13.3	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 33.3	△ 26.6	△ 26.6

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 9.8	▲ 9.8	▲ 7.0	▲ 7.0
建設	▲ 15.7	▲ 10.5	▲ 5.2	▲ 5.2
製造	△ 14.2	△ 7.1	△ 14.2	±0.0
卸・小売	▲ 21.7	▲ 17.3	▲ 17.3	▲ 4.3
サービス	▲ 6.6	▲ 13.3	▲ 13.3	▲ 20.0

【平成30年5月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設	不動産の売買で斡旋の義務化になったインスペクションの問い合わせが来るようになった。	住宅診断	一般土木建築工事業
	公共工事がまだ受注できないため従業員が過剰です。	公共工事	一般土木建築工事業
	副資材の値上げが続いていたが、5月に入ってから主材料・原材料の値上げ要請が続いている。原材料である石油値上りの為だが、原材料は石油値上がり前の在庫品にもかかわらず、6月からの値上げとなりそう。建設業での週休2日の働き方がゼネコン各社からの要望もあり天気等に左右される施工社にとって大きな課題となりそう。	材料値上げ 働き方改革	その他の職別工事業
	GWで休みが多かった割には受注が順調。外注に出す仕事も多くなり感謝です。来月は梅雨入りますが60周年に向けて準備を着々と進めようと思います。	受注増加 周年記念	内装工事業
製造業	決して印刷業は景気が良いとは思わない。取引先の注文ロットが少なくなり、それに伴って利益率も下がっている。	利益率減	印刷業
	原料価格の変動が激しい。例年になく4月から発注案件は活発。	材料価格激変	特殊産業用機械
	原材料価格の高騰により加工部品・購入部品・潤滑油等全ての調達品の購入価格に影響が出ている。	材料高騰	その他の機械・同部品製造業
	経済大変革はデジタル完全化に向かっている。しかしアナログは消えない。何をデジタル化するかを考察する必要がある。	デジタル化	印刷業
	ハローワーク求人への動きがない。	人手不足	一般産業用機械・装置製造業
卸小売	一向に上向かない数ヶ月微減が続いている。婦人服メーカーもどこも同じ傾向である。夏物の動きは早かったが、その分春物を残している。	売上減少 夏物好調	婦人・子供服小売業
	そごう撤退この先決らず、浅野書店撤退、飲食店地下撤退後決らず、客数激減いい事なし、自社設備投資して現状維持がやっと、人の流れ大きく変わり先行き不安。	そごう影響 客数減少 設備投資	時計・眼鏡・光学機械小売業
	課題となっているのは店舗の老朽化。採用を進めるが募集が少なく人手不足が続いている。	店舗老朽化 人手不足	その他の各種商品小売業
	お客様は定番商品を求めておらず、当店にきて目新しい「もの・こと」をみつけている。	目新しい情報	書籍・文房具小売業
	燃料費高騰による影響が心配。パート・アルバイトの募集をしても反応が遅い。また、採用の連絡をしても保留(断り)にされる。	経費高騰 人手不足	その他の各種商品小売業
	GW以降の売上が低迷。例年にない厳しさに。	売上減少	菓子・パン小売業
	ヤマト・佐川・日本郵便等の個人宅配業者が配送費値上げに続き、西濃・名鉄・第一貨物等の法人への配送業者が値上げを申し出てきた。個人宅配業者の主な値上げ理由は個人宅は留守が多いので再配達にコストが掛かるのが主な値上げ理由であったが、法人宅配業者の主な値上げ理由は人員確保のためであるようだ。値上げを認めないと荷物を預からないとの強硬な姿勢で責められ値上げに応じたけど、このような値上げ交渉はおかしい気がする。他の業種はどのような状況が気になります。	送料値上げ	食料・飲料卸売業
都内の建設現場が多くなってきた。特にホテル、保育園、老人ホームの火災報知設備工事。	都内現場増加	他に分類されない卸売業	
サービス業	国内外の政局不安定の中、6月12日の米朝会談に内外の注目あり。5月景気は米国金利高に伴う世界景気が下降に向かいだした。一部良好国も伸び悩みの中、日本の低金利にあえぐ地銀の収益が悪化。中小企業も仕事多したが収益反映なしのビジネス続く。大手に人手を単価でハンティングされ難局中。飲食業も安定化労働人の確保に全力要するか。原油の値上がり、輸送物の値上がり。株価低迷と頭打ち経済は長引くか。	収益減少 人手不足 原油値上り 送料値上り 株価低迷	投資顧問
	4月に人手不足を見越して、募集応募した社員を全員採用(2~3名余分)とパートも同じように余分に採用したため、従業員は足りているが人件費増で収益を圧迫している。近くのホームセンターの跡地に1階大手の薬屋、2階100円ショップの大手が開店。このためスーパー・ホームセンター・薬局が各種セールで競い合い当分の間厳しい状況が続くそう。近年午前中の来客が減少している。余暇利用の求人募集広告が多く見られ、共稼ぎ世帯が増加していると感じる。午前中の来客アップが課題。送料の負担分を商品に転嫁したり、仕入販売の価格の下限の設定がある。例:金額の少ない場合は有料で、五万円以上は無料。	人手不足 人件費増加 競争激化 客数減少 送料値上げ	その他の飲食料品小売業
	人手不足が慢性化している。業界全体として深刻さが増している。	人手不足	一般貨物自動車運送業
	お客様からの引き合いは多いですが、成約までには時間がかかっています。価格の交渉や条件面での希望が厳しくなっています。価格は品不足の為、高止まりしています。需要は多いです。	不動産高止まり	不動産管理業
	再開発は西口で終了するのが望ましい。再開発＝街の活性化ではない。そごうの一人負けだけなのに街の冷え込みも同じに考えるのが誤り。	そごう影響	不動産賃貸業

【平成30年5月業種別業界内トピックス】

客数は増加しても客単価が低下し、収益アップにつながらない。	収益減少	不動産管理業
五輪熱が冷めかけている状況と思えます。これからが正念場ですね。	オリンピック需要	ソフトウェア業

平成30年5月CCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲9.8に対し、「CCI-LOBO」が▲13.6で柏の方がマイナス幅が3.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業である。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.0に対し、「CCI-LOBO」が▲5.8で柏の方がマイナス幅が4.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲24.2に対し、「CCI-LOBO」が▲11.9で柏の方がマイナス幅が12.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業・サービス業であり、卸小売業・サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲35.7に対し、「CCI-LOBO」が▲42.4で柏の方がマイナス幅が6.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△15.7に対し、「CCI-LOBO」が△26.0で柏の方がプラス幅が10.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲5.7に対し、「CCI-LOBO」が▲7.5で柏の方がマイナス幅が1.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業である。

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (5月速報)

調査期間：平成30年5月16日～22日

調査対象：全国の422商工会議所が3722企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、緩やかな回復基調続くも、足元で一服。先行きは横ばい続く

五月の全産業合計の業況DIは、▲13.6と、前月から▲2.1ポイントの悪化。ただし、「好転」から「不変」への変化が主因であり実体はほぼ横ばい。燃料費・原材料費の上昇が広く業況の押し下げ要因となったほか、深刻な人手不足や、食料品・日用品に対する消費者の低価格志向を指摘する声が多く聞かれた。他方、堅調な電子部品や産業用機械関連に加え、インバウンドを含めた観光需要は底堅く推移している。中小企業の景況感は、総じて緩やかな回復基調が続いているものの、足元で一服感がみられる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲15.4（今月比▲1.8ポイント）と悪化を見込むものの、「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。個人消費の持ち直しやインバウンドを含めた観光需要拡

大、生産や設備投資の堅調な推移への期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響の深刻化や、燃料費・原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁遅れを懸念する声も多く、中小企業の業況感はほぼ横ばいで推移する見通し。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業、製造業、卸売業で悪化、その他の2業種でほぼ横ばい。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「公共工事の発注量が少なく、価格競争が厳しいことに加え、人件費や建設資材価格、燃料費などの上昇も相まって、採算悪化となった」（土木工事業、「再開発関連などの民間工事が多く、売上は堅調。他方、人手不足は深刻であるため、今夏から賞与を増額し、人材の確保・定着に努めるほか、省力化を目

的とした設備投資も検討している」（電気工事業）

【製造業】「水産物等の原材料価格や燃料費、運送費の上昇が収益を圧迫しているものの、消費者の節約志向から、販売先の小売業からの引き合いが鈍いため、価格転嫁に踏み切れない」（食料品製造業）、「取引先である自動車業界の輸出が堅調なことに加え、人手不足を背景とした省力化投資の拡大から、ロボット関連の部品の引き合いが強く、売上改善となった」（金属製品製造業）

【卸売業】「大手メーカーの業務用酒類の値上げに伴う、駆け込み需要の反動から、売上は大幅に減少した。新規卸先の発掘に積極的に取り組み、巻き返しを図りたい」（酒類卸売業）、「卸先の製造業の工場稼働率が高く、当社の売上も改善した。他方、仕入価格や燃料費、運送費等の上昇から、収益の確保には難航している」（金属製品卸売業）

【小売業】「インバウンド需要

が好調で売上は改善。特に、ブランド衣料品を含む高額品や、化粧品品の売上が伸びている」（百貨店）、「飲食料品や日用品等の値上げから、消費者の低価格志向が強まり、売上は落ち込んだ。パート・アルバイトの人件費が上昇する中、同業他社との価格競争も厳しさを増し、採算も悪化した」（飲食料品小売業）

【サービス業】「今年のゴールデンウィークは日並びが良かったため、客数増を期待していたが、期間中の天候不順等により、想定した客数には届かなかった」（飲食業）、「ネット通販など、好調な配送需要を受け、売上は改善。ただし、中東情勢の緊迫化を背景とした燃料費の上昇で、粗利の確保には苦戦している」（運送業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
12月	▲13.3	▲7.4	▲6.7	▲17.4	▲25.8	▲11.5
1月	▲14.4	▲13.6	▲5.1	▲12.2	▲25.2	▲16.1
2月	▲17.1	▲11.4	▲10.1	▲20.8	▲27.3	▲17.9
3月	▲15.8	▲13.5	▲6.1	▲18.8	▲26.9	▲16.3
4月	▲11.5	▲13.1	0.5	▲18.3	▲25.7	▲7.6
5月	▲13.6	▲14.8	▲5.8	▲19.4	▲26.5	▲7.6
見通し	▲15.4	▲11.8	▲9.7	▲20.3	▲27.5	▲11.3

柏の景気情報

(5月の調査結果のポイント)

調査期間：平成30年5月28日～6月6日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数71件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
12月	▲18.3	▲20.0	△18.7	▲47.3	▲18.7
1月	▲15.2	▲19.0	△20.0	▲47.6	±0.0
2月	▲22.2	▲14.2	▲20.0	▲40.9	▲7.1
3月	▲11.4	▲11.1	±0.0	▲26.0	±0.0
4月	▲12.8	△5.2	△7.6	▲34.7	▲20.0
5月	▲9.8	▲15.7	△14.2	▲21.7	▲6.6
見通し	▲9.8	▲10.5	△7.6	▲17.3	▲13.3

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

業況D Iはほぼ横ばいだが、先行きは回復への期待感が見られる見通し。

5月の全産業合計のD I値(前年同月比)ベース、以下同じは▲9.8(前月水準▲12.8)となり、マイナス幅が3.0ポイント縮小した。業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△14.2(同△7.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.6(同▲20.0)、卸小売業▲21.7(同▲34.7)である。

プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲15.7(同▲5.2)である。

【建設業】からは、「不動産売買で斡旋の義務化になったインスペクションの問合せが来るようになった」「一般土木建築工事業」、「公共工事がまだ受注できないため従業員が過剰」「一般土木建築工事業」、「週休2日の働き方がゼネコン各社から要望あり、天気等に左右される施工社にとって大きな課題となる」「職別工事業」、「GWで休みが多かった割には受注が順調で外注に出す仕事も多くなった。来月は梅雨入りするが60周年に向けて準備を着々と進めようと思う」「内装工事業」などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「決して景気が良いとは思わない。取引先の注文ロットが少なくなり、利益率も下がっている」「印刷業」、「例年になく発注案件は活発」(特殊産業用機械)、「経済大変革はデジタル完全化に向かっていくのがアナログは消えない。何をデジタル化するかを考察する必要がある」「印刷業」などのコメントが寄せられた。

分春物を残している(婦人子供服小売業)、「そろそろ撤退の後が決らず、浅野書店も撤退。客数激減。自社設備投資して現状維持がやっとで人の流れが大きく変わり先行き不安」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「店舗老朽化が課題」(各種商品小売業)、「GW以降の売上が低迷。例年にならない厳しさ」(菓子・パン小売業)、「都内の建設現場が多くなってきた。特にホテル・保育園・老人ホーム等の火災報知設備工事」(分類されない卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「米国金利高に伴う世界景気が下降に向かいだした。一部良好国も伸び悩みの中、日本の低金利にあえぐ地銀の収益が悪化。中小企業も仕事多しだが収益反映なしのビジネスが続く」(投資顧問)、「近くのホームセンター跡地に1階大手の薬屋、2階100円ショップの大手が開店。このためスーパー・ホームセンター・薬局が各種セールで競い合い当分の間厳しい状況が続く。近年午前中の来客が減少しているため、来客アップが課題。余暇利用の求人募集広告が多く見られ、共稼ぎ世帯が増加していると感じた」(飲食料点小売業)、「客数増加しても客単価低下し、収益アップにつながる

ならない」(不動産管理業)、「5輪熱が冷めかけているがこれから正念場」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

5月の景気キーワード

◎人手不足

各業種より、「ハローワーク求人の動きがない」「一般産業用機械・装置製造業」、「採用を進めるが、募集が少なく人手不足が続いている」(各種商品小売業)、「パート・アルバイトの募集をしても反応が遅い。また、採用の連絡をしても保留(断り)にされる」(各種商品小売業)、「大手に人手を単価でハンティングされ難局中。飲食業は安定労働力の確保に全力を要する」(投資顧問)、「人手不足を見越して、応募した社員を全員採用(2〜3名余分)し、パートも余分に採用したため、従業員は足りているが人件費増で収益を圧迫」(飲食料点小売業)、「人手不足が慢性化。業界全体として深刻さが増している」(一般貨物自動車運送業)との声が寄せられた。

◎経費増加

各業種より、「副資材の値上げが続いていたが、5月に入ってから主材料・原材料の値上げ要請が続いている。原材料である石油値上りの為だが、原材料は石油値上がり前の在庫品にもかかわらず6月

からの値上げとなりそう」(職別工事業)、「原料価格の変動が激しい」(特殊産業用機械)、「ヤマト・佐川・日本郵便等の個人宅配業者が配送費値上げに続き、西濃・名鉄・第一貨物等の法人への配送業者も値上げを申し出てきた。個人宅配業者の主な値上げ理由は個人宅は留守が多いので再配達にコストが掛かるのが主な値上げ理由であったが、法人宅配業者の主な値上げ理由は人員確保のためであるようだ。値上げを認めないと荷物を預からないとの強硬な姿勢で責められたが、このような交渉はおかしい気がする」(食料・飲料卸売業)、「原油の値上がり、輸送物の値上がり、株価低迷と頭打ち経済は長引く」(投資顧問)、「送料の負担を商品に転嫁したり、仕入販売価格の下限の設定がある」(飲食料点小売業)との声が寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では「柏の景気」が▲9.8に対し、「CCI-LOBO」が▲13.6で柏の方がマイナス幅は3.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業である。